

紅海での再確認 (出 14:26-31)

いま世の中では、努力すれば報われる、お金さえあればなんでもできる、発展すれば良い人生、良い社会になるという信念が当然のように言われていて、その信念を達成するために、偶像を作っています。しかし、どんなに信念をもっている、人々は心を病み、精神も肉体も病んで、人生は思いもよらない方向に向かって、バランスが崩れて失敗に終わり、死の恐怖に捕らわれて、子孫にまで苦しみを受け継がれていきます。偶像を熱心におがめばおがむほど、それは、悪霊に仕えることなので、より苦しみます。そのような世の中から救い出されたのが信者です。信者が救い出された理由は、このように信念に捕らわれて、だまされ、疲れて重荷を負って壊れていく現場に光を照らし生かす、現場灯台として立つためです。それが信者の存在理由と価値です。

そのような信者の前に、大きな壁のような問題がたちあがるときがあります。そのとき、恐れ、つぶやくのではないことを、きょう、紅海の場面を通して確認しましょう。イスラエルの民の前に、紅海が立ちふさがり、それだけではなく、終わったはずのエジプトの兵隊が追いかけてきました。しかし、結果は、海の水が真っ二つに分かれて、イスラエルの民は、紅海をそこを渡り、うしろから追いかけてきたエジプトの兵隊は、水が戻ってすべてが死体になりました。

現場灯台の存在意義、価値がある信者の目の前にある紅海は、まず第一に、**キリストにあって信者はすでにすべての過去の問題は完全に終わったことを確認させるためのものです**。神様は、どんな過去でも終わったと信仰告白させるための道具として紅海を与えられました。恐れることなく、だまされずに「キリスト・イエスにあってすべて終わった」と確認しましょう。思い出に浸る必要も、未練を持つ必要も、傷になって縛られる必要も



ありません。記憶に残っているので、振り回されることもあります。それでも「終わった」ということを再確認しましょう。もはや、縁が切れて関係ないのです。それを紅海の事件を通して、神様が見せてくださいました。過去を思い出したら、それは終わったことを告白するチャンスにしましょう。

私は十字架とともに死んで、キリストが生きておられます(ガラテヤ 2:20)、記憶にあるとしても、新しく造られた者です(Ⅱコリント 5:17)。過去は、私を愛されている神様がいのちの唯一の道、キリストへ導かれたガイドであるだけです。世の中の考えやサタンは、過去を通して攻撃してきます。しかし、そこで「それがどうした」と大胆に立ち向かって、信仰によって過去は終わったと確認しましょう。それが精神の病のいやしのポイントです。イエスがキリストだから終わったと確認し続けましょう。信者の過去と、いまの自分とつなぎ目があるてはならないのです。それを結びつけるのは、十字架を無視することになります。十字架は小さくありません。常識、法律、主義、イデオロギーなどにまさる神様の恵みです。過去との決別宣言をしましょう。そして同じ問題に悩む人々を生かすための実験済みの臨床実験データであると、確認しましょう。

もうひとつ、紅海が許されたのは、**キリストにあって完全に新しく生まれた祝福の存在だと確認するため**です。紅海のような不可能な問題であっても、滅ぼすことも、奪うこともできない祝福の主人公であるということを見せつけられたのです。新しく生まれた祝福の人間であることを確認しましょう。自分の想像や計算をはるかに超えたすばらしい祝福だということを証明するのが紅海です。もう二度と罪に定められず、死と罪の原理から完全に解放されました(ローマ 8:1,2)。いのちのみことば、キリストによって新しく生まれたのです(Ⅰペテロ 1:23)。神様から生まれた者です(ヨハネ 1:13)。十字架でと

みに死に、キリストが内に生きておられます。不思議な神様の働きで、キリストとともに生かして、よみがえらされ、ともに天のところに座っています(エペソ 2:5-6)。新しく創造された者です。聖霊が宿る神の神殿で、土の器に見えても、内に宝のキリストを持つ存在です。天にあるすべての霊的祝福をすでに注がれています(エペソ 1:3)。どんなこともこの祝福を奪うことはできないのです。かえって、この祝福がほかのことを覆い尽くすほどのものです。世の次元とはちがう、神様とワンネスになる、キリストのからだなる教会です。キリストにあって義と認められ、栄光に富んだ者となりました(ローマ 8:30)。このような祝福を確認するために、不可能な紅海の前に置かれたのです。

イエスをキリストと告白したペテロは、そのとき、まだ無知で、社会的な地位は低く、性格も良くない者でしたが、告白した瞬間「あなたは幸いです」と言われました。弟子たちも、最初は、まったく整えられていず、無視される存在でしたが、イエス様は最初に言われたのが「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものです」と幸いな者であると言われました。祝福を用意して召されました。アイデンティティとして握りましょう。

過去は終わりました。どんなに大きな試練や問題があっても、「それがどうした」と過去が終わったことを宣言しましょう。そして、今の自分はキリストにあって新しく祝福された存在だと、確認しましょう。苦難や壁によって奪われることがない祝福を発見して、その中に集中して入っていきましょう。そして、苦難や壁がなくても、いつも定期的に現場灯台のアイデンティティを確認して、過去との決別宣言をする時間、祝福の者だということを確認する自分だけの時間を持ちましょう。人生のすべてが健康になりすやかに鍵です。いやしの祝福、現場灯台としての答えが与えられることを感謝して、待ち望みましょう。

(http://jremnant.com に音声と動画が出ています)

出エジプト 14:26-31 紅海での再確認
なるほど/暗やみに捕らわれてる人たちを生かす現場灯台として召された信者は、時に、紅海のような理解出来ない試練に会うときがあるけど、それは滅びの過去が終わったことを再確認することであり、また、紅海も奪うことができない、キリストにあって新しく生まれた祝福の人であることを再確認する材料である。ならば/定期的に、また理解できない試練の前で、現場灯台のアイデンティティを告白して、過去との決別を宣言しよう。自分は、キリストにあって新しく生まれた祝福の人であることを認めよう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2019年3月10日)
1部礼拝：カレブの信仰が必要な時代 (ヨシ 14:6-15)
大きな危機と苦しみが生じたとき、神様が私たちとともにおられる信仰を持って、契約を告白させてくださり感謝します。危機の前で神様とともにおられる契約の人、WITHの人になり、契約成就を見て味わいますように。危機のときに霊的な目を開いた人になり、神様が祝福されるインマヌエルの人として世の中を生かしますように。神様の力を信じる力の人として、危機の前で自分をささげて献身するワンネスの人になりますように。今日がまさに機会を握る契約の日になりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。
2部礼拝：ギデオンの300勇士 (士 7:1-8)
熱心も最善でもなく、やればできるでもなく、神様が願っておられる宣教をするようにしてください感謝します。福音がなくなって、教会が閉鎖する時代に、神様が願っておられる福音運動をする弟子になりますように。いのちを生かす重要なことは神様が直接なさるということを知って、福音を正しく悟って伝える弟子を育てますように。すべてのこと、すべての力が神様にあることを知って、神様が行われる過去、今日、未来の契約を握って教会を建築して、レムナントと237カ国を生かしますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。